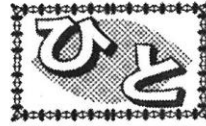


大成ロテック
国際支社長

田崎 信一 氏



今年4月に親会社の大成建設から出向。10月1日付

けて国際支社長に就任した。大成ロテックは、18年度からスタートした中期経営計画の中で、海外事業の強化を掲げ、現在、ベトナムと中国で事業を展開している。

ベトナムでは、今年4月に現地法人をハノイ市に設立した。2000年から特殊舗装の事業を行っている中国でも新たに現地企業との合併で事業を拡大し

ていく時期に来ている。こういう大事な時期、新たなスタートの時期に支社長を拝命し重責を感じている」と語る。

ベトナムでは、再生アスファルト技術を導入し、リサイクルの仕組みを定着させ、同国の環境問題の解決に貢献していく。「生まれた

プラントと一体で現地案件の開拓

ばかりの現地法人だが、固有技術を生かして早く軌道に乗せることが課題。プラントを保有している会社として、そのメリットを生

じ、成果とともに弊社技術の価値を認識していただき、それに続いてプラントを持つている道路会社として工事を取りに行く。そうい

と、ベトナム国立土木大学と日本の埼玉大学で共同研究が行われており現地で交流しているが、実は埼玉大学は母校。また、プラントメーカーの社長に同級生が4月に就任した。さらに、一緒に仕事をす



かして受注につなげた」とし、プラントと工事の一体で相乗効果を出していく方針だ。また、「技術コンサル業務を先行し、それにより工事を受注していきたい。技術支援を通

う形態で切り拓いていきたい」と語る。大成ロテックに来て国際の仕事をする中で、3つの縁を感じているという。「JICAが建設廃材の有効利用を現地に根付かせよう

る協力会社が生まれ育った茨城県土浦市の会社。何か運命を感じさせる」と話す。趣味は社交ダンスとトランプマジック。座右の銘は山本五十六の言葉で「やってみせて聞かせてさせてみて誉めてやらねば人は動かじ」。いずれも現地でのコミュニケーション面で仕事に役立っているという。

【略歴】85年4月大成建設入社、06年1月国際支店チユンジア・ラアスラクレット橋建設工事作業所長、13年4月土木本部プロジェクト部第三プロジェクト室長、16年10月横浜支店土木部部長、19年4月大成ロテック国際支社副支社長（東南アジア担当）、同年10月国際支社長。茨城県出身、59歳。